はじめに

本 2002 年度に、５年計画の文部科学省 21 世紀 COE プログラムの１つとして、愛知大学が申請した国際中国学研究センター（International Center for Chinese Studies, 略称 ICCS）が採択され、５つの COE-ICCS 研究会が活動を開始した。その１つである環境研究会（正式名称：現代中国とアジア世界の人口生態環境問題研究会）は、15 名前後の日本人と中国人の研究者で構成されており、これまでに３回の国際シンポジウム、十数回の研究会、中国でのフィールドワーク（山西省、雲南省、新疆、寧夏、内蒙古、遼寧省、吉林省）や討論会（北京、南京）などを行ってきた。本書は、環境研究会のメンバーが各１章を担当し、中国の環境問題を意識しつつ、各自の環境論を展開したものである。後述する第１章の図１には、哲学（方法論）・基礎研究・制度設計・社会システム・環境対策の５部門と日中環境協力の６者の関係が図示してあり、18 名の発表者（環境研究会メンバー以外を含む）がどの部門のどのようなテーマについて発表したかが記入してある。これら５部門間の調和がうまくとれていないと、環境改善の実効があがらないことは、すでに先進諸国の経験から明らかである。現在の中国の環境問題改善についての弱点は、中央からのトップダウン的アプローチは強力に推進されているが、地方からのボットムアップ的アプローチが極めて弱いことにある。本書の章構成も、基本的には図１の枠組みを採用している。つまり、第１章は方法論、第２章から第６章までが基礎研究、第７章から第 11 章までが制度・政策、第 12 章と第 13 章が社会システム、第 14 章が環境改善実践事例、第 15 章と第 16 章が日中環境協力である。各章のテーマは（執筆者による修正を前提に）主査が決めて、各メンバーに執筆を依頼したものである。

2007 年３月

現代中国とアジア世界の人口生態環境問題研究会主査

樋根　勇